



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.jp/nodai/>

第7号 平成 22 年 10 月 31 日
香川県立農業大学

〒 766-0004

仲多度郡琴平町榎井 34-3

TEL 0877-75-1141 FAX 0877-75-3989

専攻実習の取り組み

2 学年では、自らが課題を選定し、調査・研究・取りまとめまでを行うプロジェクト学習に取り組んでいます。

レタスの効率的経営の調査

野菜園芸コース 合田正幸

私は、観音寺市のレタス農家、久保哲也さんの農場で専攻実習に取り組んでいます。

経営主の哲也さんは本校の先輩で昭和 55 年 3 月に農大を卒業後、派米研修に参加し、2 年間アメリカの大規模野菜経営を学ばれました。

帰国後、地元でレタスを中心とした農業経営に取り組んでいて、現在、レタスの栽培面積が 3 畝と、家族経営としてはかなり大規模な面積の作付となっています。

久保さんの経営の特徴は、リスクを回避するため雇用を行わず、3 人の家族労力で 3 畝のレタス栽培すべてを行っていることです。

そのため、自作地での品種特性



や近年の気象条件を勘案し、作型別の面積を決定しているほか、無包装出荷などの省力化も行い、作業効率を高めています。

私は、久保さんの取り組みや工夫を卒業論文にまとめて行くとともに、実習で学んだことを就職後も生かせるように、残り少ない専攻実習期間を一杯頑張っていきたいと思えます。

夏水河の品質向上

花き園芸コース 森 優也

近年の輪ギク栽培は、品種の戦国時代と言われるほど、多くの品種が栽培されています。

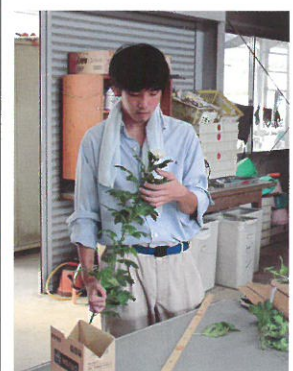
特に夏ギクは毎年のように新しい品種が導入され、農家も新たに導入した品種に対して最適な栽培方法を試行錯誤しているのが現状です。

そこで私は、県内でも数戸の農家しか栽培していないノンパテント品種である夏ギク「夏水河」に目を付けました。農大でも、昨年初めて「夏水河」を栽培しましたが、花首が伸び易く切花品質が低下し易いという問題点がありましたので、植物成長調整剤の効果的使用による切花品質の向上について、養液土耕栽培でのデータ収集を行いました。

現在は、収穫した切花の品質調査も終わり、データ分析をしています。

とても忙しい毎日ですが、まとめ上げた卒業論文を花き栽培農家に役立ててもらおうと

思っ、頑張っています。



ももの除袋時期の検討

果樹園芸コース 安部裕樹

私は、本校の校舎から少し離れた果樹園で実習を行っています。

2 年生はそれぞれが担当する果樹を選択し、その品目のより深い知識を得られるよう日々実習を行っています。また、その実習の中でテーマを決めて、調査を行っています。

私が担当する品目は、モモです。

テーマは、「なつおとめ」という品種の除袋時期の違いが、着色におよぼす影響です。

早期除袋区、適期除袋区、後期除袋区のそれぞれについて 1 ヶ月ごとに果実の肥大、着色調査をしました。

収穫は、先生方や同級生に協力してもらい果実の着色、糖度、硬度、重量、果径等を調査し、どの区の果実品質が良いかを判別しました。現在は、得られたデータをパソコンに入力し、そのデータの統計処理を行っています。



です
出水でのピオトープ作製

造園緑化コース 卵目由樹

造園緑化コース倉庫近くには、何十年も前から水が枯れ、雑草が生い茂り、石垣も崩れるなど、荒れ果てている出水があります。

私は、その出水が1学年のときから気になっていまし

たので、専攻実習の課題相談の折、環境保護や自然教育の一環として注目され始めているピオトープ作りを希望しました。

出水の持ち主である水利組合も快く了承してくださり、施工許可を得たので、現在、作業工程に基づき、草刈りやゴミの撤去を実施しています。

今後は、底にたまった土やヘドロ除去、石垣の修復とともに、自然と調和したピオトープを作成する計画です。

大変な作業ですが、昔のような出水の姿を取り戻せるよう頑張りたいと思います。



雄子豚の無去勢飼育の分析
畜産コース 鶴足恭平

私は三木町の県畜産試験場で、養豚に関する技術を主に実習しています。

養豚に関する課題は、生産現場から流通・加工と広く、どれもおろそかにはできません。生産者の立場では効率よく豚を育てることが大切ですし、消費者は安全安心でおいしく、そして満足のできる価格が必要となってきます。

私は、雄子豚を去勢しない場合の発育や肉質に与える影響を調査し分析したいと考えています。去勢は子豚にとって大きなストレスとなり発育不良になるためです。

また、去勢の作業は農家の方にとっても大きな負担となつていきますので、無去勢が発育や肉質に悪い影響を与えないのであれば豚・人両方のストレスが緩和されると思います。

一年間の実習期間で全ての課題を身につけるのは難しいかもしれませんが、残りの期間も真剣に取り組みたいと思います。

活躍する卒業生

大西理沙さん

(平成 20 年度卒業生)

高校時代の恩師の紹介で、農大を卒業後、笠田高等学校の実習助手として頑張っておられる大西さんを紹介いたします。

大西さんは、花屋さんにあこがれ、専門知識を学ぶため農大に入学されました。

農大では、花き園芸コースの先生に親身に指導していただき、花き農家でも取り組みを始めたばかりの、拍動式灌水装置の組み立てから実



証試験までさせてもらうなど、今の自分にとって本当にいい経験を積めたとのこと。現在、大西さんは、農大での専門とは異なつて果樹担当をしていますが、農大で学んだ、病害虫や栽培概論などの基礎知識のおかげで何とかやれているそうです。花はいやされますし、果樹は、1年の成果が実となる点が良いとか。

ここで学生さんへひとこと「今が勉強の時期です。でも空いた時間は、思いっきり遊びましょう!!」

また、「目標が少し変わることも、新たな楽しみが見つけられることもありすが、農を学んだ者として頑張ってください」と、農大生に激励をいただきました。



活躍する修了生

松本 剛さん

(平成 21 年度修了生)

今回は、高松市太田下町の市街地で、親から引き継いで農業に取り組んでいる松本さんを紹介します。松本さんは平成 21 年度の本校研修科修了生です。

24 年間県外の流通業に勤務され、平成 20 年に勤めを退職されました。自宅は農家で、水田 70 アールと畑地 35 アールを所有していますが、近年は両親の高齢化と遠隔地通勤で、兼業での管理が困難になっていました。

兼業で水稲は栽培していましたが、野菜は家庭菜園の経験だけでした。ほとんど経験が無かったので、本当に野菜が作れるのかどうか不安だったそうです。

そこで 1 年を通しての露地野菜の基礎的な栽培技術を学びたいということで、本校の 1 年研修に参加されました。

当初から水稲後の露地野

菜品目の選定を目標に研修に取り組み、ブロッコリーと雨よけアスパラガスを対象品目に絞りました。研修期間中、アスパラガスは補助事業で雨よけハウスを整備し、また、認定就農者の認定も受けました。

研修を修了して半年余りが経過した現在、計画を着実に進めており、アスパラガス 20 アール、ブロッコリー 55 アール、水稲 55 アールの目標に少しずつ面積拡大しているところです。

さらに、消費者の多い地域に位置している条件を活かし、農業への関心を持ってもらいたいと、24 アールの農地で体験農園を開設しています。39 区画を整備し、単なる区画貸しではなく、野菜づくりを教わりたいという近隣の人を対象に一年を通じて、野菜づくりの基本を松本さんが教えています。

市街地で受け継いだ農地を守り、地域に根ざした農業に挑戦している松本さんの御活躍を御祈念いたします。

造園技能検定への

取り組み

造園緑化コースでは、例年、造園技能士の入門コースとも呼ばれる 3 級技能検定を受験しています。本年も、1 学年が 7 月に受検し 6 名が合格しました。

また、本年はじめて 2 学年 8 名が、就職などにより有利な 2 級の検定に挑戦しました。

実技検定は、9 月 11、12 日に猛暑の中行われ、学生は 3 時間の限られた時間内で四つ目垣、鳥居型支柱および敷石などの作成に懸命に取り組みました。



結果は、実技課題を制限時間内に完成することができない学生がでるなど、学科試験のみ合格 5 名という成績にとどまり、課題が残りましたが、学生は貴重な経験をすることができました。



日本農業技術検定試験等への取り組み

日本農業技術検定

本校では、1 年時に日本農業技術検定 3 級の取得、2 年時に 2 級の取得を学生の目標にしています。

7 月 24 日に、本年度の第

1 回日本農業技術検定試験が本校で実施されました。

本校学生は、3 級に 17 名が受験し 11 名が合格、2 級には 22 名が受験し 3 名が合格しました。

合格率は、2 級・3 級ともに全国平均並みでした。2 月にある第 2 回試験での合格率を高められるように取り組んでいく予定です。

毒物劇物取扱者試験

本校では、就農や就職に役立つよう毒物劇物取扱者の資格取得をすすめています。

7 月 28 日に、香川県庁で一般毒物劇物取扱者試験があり、法規、基礎化学、取り扱い、実地の 4 科目の試験でした。

本校から 13 名の学生が受験し、3 名が合格しました。合格率は県平均並みでした。

受験した学生は試験結果から、次回の合格に向けて、法規、基礎化学を重点的に補習する予定です。

農耕車限定運転 免許への取り組み

大型農業機械実習場では、農耕車限定の大型特殊免許とけん引免許の技能試験が年 4 回程度行われています。

これは、農業機械利用技能者の養成と農作業安全の啓発を目的とした農業機械研修の一環として実施しているもので、県運転免許センターの協力のもと、昭和 40 年から始まりました。

なお、最近では、申込者が定員（今年度 80 名）を上回っていることから、受講対象者を県内農業者と本校学生・研修生のみとしております。



また、この試験は、いわゆる免許センターでの一発試験と同じなので、左折時の巻き込み確認や進路変更など道路交通法に則った運転操作が正確にできないと合格しません。
希望者は覚悟のうえお申し込みを！

農大ふれあい市 開催！

本校の学生自治会が、恒例の『農大ふれあい市』を開催します。
本年も学生が頑張って趣向を凝らした企画を用意しておりますので、お越ください。

- 開催日 11月13日(土)
- 開催時間 午前10時半～午後2時
- 内容(予定)
 - ・野菜、果物、米販売
 - ・苗物、鉢物、堆肥等販売
 - ・模擬店(たこ焼き、焼きそば、焼鳥、餅等)
 - ・展示(牛乳、卵)

●オープンキャンパス
来年度、入学等を希望される方や保護者の方で校内見学を希望される方は受付までお越しください。



《お願い》本校の駐車場は、数に限りがありますので、できる限り公共交通機関をご利用ください。



平成二十三年度学生募集

担い手養成科

●募集人員

- 野菜園芸・花き園芸・果樹園芸・造園緑化・畜産 5コースで45名

●一般入試

- 試験内容 小論文、一般教養、面接試験

前期日程

- ・受付期間 12月6日(木)～12月20日(月)
- ・試験日 1月6日(木)
- ・合格発表 1月13日(木)

後期日程

- ・受付期間 2月21日(月)～2月28日(月)
 - ・試験日 3月7日(月)
 - ・合格発表 3月10日(木)
- *推薦入試は終了しました。

技術研修科

●就農支援の研修

- 就農実践研修
研修期間 4月から1年間です。

◆就農準備研修

- 研修期間 4か月間。
年間3回募集
します。

11月13日	農大ふれあい市
1月6日	一般入学試験(前期)
1月23日	校内卒業論文発表会
2月3～4日	中国四国プロダクトフェア発表会
2月23～24日	全国農業大学校プロダクト発表会
3月3日	卒業式(予定)
3月7日	一般入学試験(後期)
3月9～11日	1学年県外先進地研修

- 農業機械技能者養成研修
 - ◆農耕車限定大型特殊運転免許研修
 - ◆農耕車限定けん引免許研修
 - ◆農業機械士研修
- 《お問い合わせ先》
農業大学校
TEL 〇八七七・七五・一四一
又は、
各地域の農業改良普及センター